

教育に関する事務の点検及び評価報告書

(令和7年度分)

令和8年8月

南部町教育委員会

【目次】

第1 点検・評価制度の概要	1
1. 事務の点検・評価の考え方	1
2. 事務の点検・評価の方法	1
3. 事務の分類と評価	1
第2 事務事業ごとの点検・評価	2
I 教育委員会の活動	
1. 教育委員の構成	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 委員会議の開催状況	2
(2) その他の活動状況	3
II 教育委員会が管理執行する事務	3
III 各課の事務の点検及び評価の結果	4～29
1. 学校教育環境の充実（学校教育課）	
(1) 学校教育施設・環境の整備	4～12
(2) 学校教育内容の充実	12～13
(3) 教育支援センター事業の実施	14～16
2. 生涯学習の充実（生涯学習課）	17～19
3. 文化の振興（生涯学習課）	20～21
4. 公民館・文化ホール事業（生涯学習課）	21～22
5. アルカディア文化館（生涯学習課）	
(1) 南部図書館・富沢図書館	23
(2) 町立美術館	23～24
6. 生涯スポーツの充実（生涯学習課）	
(1) 施設の充実と効果的な活用	25～27
(2) スポーツグループの育成とスポーツの活性化	27～29
(3) 組織の充実と連携	29

第1 点検・評価制度の概要

1. 事務の点検・評価の考え方

南部町教育委員会では、学校教育、生涯学習、文化、スポーツ・レクリエーションなどの分野で様々な施策に取り組んでいますが、これらの施策を充実させる上で各施策の進捗状況や町民の皆様及び関係各位の意見を踏まえることは非常に重要なことです。また、政策効果を把握し、必要性、効率性等の観点から自ら評価を行い、その結果を公表することは、住民に対する説明責任を果たす上で重要なことです。

このようなことから「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、自らの権限に属する事務の管理及び執行について、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、町民に公表する取組を平成 20 年度から実施しています。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務「前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。」の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 事務の点検・評価の方法

令和 7 年度に南部町教育委員会並びに教育委員会各課において執行された事務事業について、教育委員会内部で点検評価する。

3. 事務の分類と評価

教育委員会所掌の事務事業を次のとおり 3 分類する。

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理執行する事務」
- III 「教育委員会各課の執行する事務事業」

◇ 達成度の評価

「III 教育委員会各課の執行する事務事業」について、達成度を 5 段階で評価する。

- 5 極めて満足である（順調に達成している）
- 4 満足である（概ね順調に達成している）
- 3 普通（達成見込みだが若干課題がある）
- 2 不満足である（順調でない）
- 1 極めて不満足である（達成しなかった）
- 評価しがたいもの

第2 事務事業ごとの点検・評価

I 教育委員会の活動

1. 教育委員の構成

南部町教育委員（ 2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日）

職 名	氏 名	任 期	備 考
教 育 長	市川 隆	2024 年 4 月 1 日 ～2027 年 3 月 31 日	教育長就任 2024 年 4 月 1 日
教 育 長 職務代理者	渡邊 正志	2022 年 5 月 10 日 ～2026 年 5 月 9 日	教育長職務代理者就任 2025 年 5 月 1 日
委 員	望月 正宏	2023 年 5 月 10 日 ～2027 年 5 月 9 日	
〃	山本 純司	2024 年 5 月 1 日 ～2028 年 4 月 30 日	
〃	望月 聡美	2025 年 5 月 1 日 ～2029 年 4 月 30 日	

2. 教育委員会の活動状況

(1) 委員会議の開催状況

南部町教育委員会の会議は原則として公開する。また、毎月 1 回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催する。

この会議において、5 名の教育委員（教育長 1 名を含む。）が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則等の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けている。

令和 7 年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

会 議	開催日	議案	協議・報告	その他
令和 7 年 定例会 第 4 回	4 月 7 日	3	1	7
〃 第 5 回	5 月 1 日	2	3	2
〃 第 6 回	6 月 6 日	0	2	5
〃 第 7 回	7 月 9 日	2	1	4
〃 第 8 回	8 月 26 日	3	1	4
〃 第 9 回	9 月 25 日	1	1	4
〃 第 10 回	10 月 22 日	1	1	4
〃 第 11 回	11 月 27 日	2	3	4
〃 第 12 回	12 月 16 日	0	3	4
令和 8 年 〃 第 1 回	1 月 20 日	2	3	4
〃 第 2 回	2 月 19 日	5	3	4
〃 第 3 回	3 月 25 日	1	2	4
合 計		22 件	24 件	50 件

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議への出席以外に、各会議、関係行事等へ出席している。
なお、平成27年度より地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、南部町総合教育会議が設置され、令和7年度は3回の会議が開催された。その他主な活動は次のとおりである。

- ・ 山梨県町村教育長会
- ・ 山梨県教育委員会連合会
- ・ 峡南地区教育委員会連合会
- ・ 峡南地域教育推進連絡協議会
- ・ 各小中学校入学式
- ・ 卒業式
- ・ 各小学校運動会
- ・ 中学校学園祭
- ・ 学校訪問
- ・ 管理主事訪問
- ・ 教育を語る会要望書提出
- ・ はたちのつどい
- ・ その他各種イベント事業への出席

Ⅱ 教育委員会が管理執行する事務

教育委員会が管理執行する事務は南部町教育委員会事務委任規則に規定されている。
令和7年度に管理執行した事務については下記のとおりである。

(1) 教育委員会規則及びその他の重要な規定の制定及び廃案すること。

規則の制定・改正・廃止

南部町立小中学校に就学すべき者の学校の指定に関する規則の制定
南部町学校施設の開放に関する条例施行規則の一部改正

要綱・規程の制定・改正・廃止

南部中学校部活動地域展開運営協議会要綱の制定

(2) 教育予算その他の議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。

条例の制定・改正・廃止

南部町学校施設の開放に関する条例の一部改正
南部町社会体育施設条例の一部改正
南部町特別職報酬条例の一部改正

予算

令和7年度6月補正予算、令和7年度9月補正予算、令和7年度12月補正予算、
令和7年度3月補正予算、令和8年度当初予算

(3) 教育委員会の所管する各種委員会の委員の任命及び委嘱に関すること。

学校運営協議会 委員29名
社会教育委員協議会並びに公民館運営審議会 委員13名
スポーツ推進審議会 委員6名
美術館運営審議会 委員6名
文化財保護審議会 委員5名

Ⅲ 各課の事務の点検及び評価の結果

1. 学校教育環境の充実（学校教育課）

（1）学校教育施設・環境の整備

① 学校施設環境整備事業

* 事業概要

- ・小中学校に学校図書の整備を行った。

* 成 果 [評価 4]

[小中学校施設の学校図書の整備]

- ・睦合小学校 799,316円 (図書 411冊 CD 0枚 DVD 0枚)
- ・栄小学校 570,548円 (図書 335冊 CD 0枚 DVD 0枚)
- ・富沢小学校 699,049円 (図書 413冊 CD 0枚 DVD 0枚)
- ・南部中学校 871,734円 (図書 354冊 CD 0枚 DVD 12枚)

* 課 題

学校図書の購入については、限られた予算の中で計画的に進める必要がある。

② 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業（スクールガードリーダー）

* 事業概要

子どもたちが安心して教育を受けられるよう、家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら、学校の安全管理に関する取組を実施することを目的とする。

本町では、平成17年より1名のスクールガードリーダーを委嘱し、小学校3校に対して登校の際の子どもへの指導、見守り隊への指導、通学路の安全確認等を実施している。スクールガードリーダーは、主として学校周辺を登校時間帯に2時間程度、3小学校を曜日変わりで巡回している。

- ・スクールガードリーダー報償費 195,000円 巡回日数：100日

* 成 果 [評価 4]

事業を開始してからは特に問題等は起きておらず、交通事故防止、犯罪抑止など事業効果は大きい。また、地域や保護者、スクールサポーターと連携し登下校における安全確保の取組が進んでいる。

* 課 題

今後も子どもたちの安全確保のため事業を継続していくが、小学校の見守り地域が広範囲に及ぶため、各校の見守りボランティアや地域住民の協力が必要である。また、近年は、熊の出没が課題となっているため熊対策を組み込んだ見守り計画が必要となってくる。見守り活動が負担とならないよう犬の散歩やウォーキングとあわせて行う「ながらパトロール」の依頼をするなど、多くの方の参加を促し、地域での見守り活動を推進する。

③ 日本スポーツ振興センター災害給付金事業

* 事業概要

各小中学校に在学する児童生徒の不慮の災害に備えて、独立行政法人日本スポーツ振興センターと災害共済給付契約を結び、学校の管理下において児童生徒が災害に遭った

場合、その治療費や見舞金の給付を保護者に対して行う制度。町では全校児童生徒がこの制度に加入しており、その共済掛金は町が負担している。

- ・ 共済掛金合計額 298,265円（対象：小学校203人、中学校116人）
- ・ 実績（給付金合計）293,684円（対象：小学校15件、中学校16件）

* 成果 [評価 5]

町では、医療費助成制度により、18歳まで無料化されているが、この災害給付金制度では療養に伴って要する費用として加算される分（1/10）があり保護者にとっては有利である。学校でもその点を説明し、この制度の利用に努めている。

* 課題

各学校では、児童生徒や保護者がスムーズに手続きが取れるよう、説明や周知を行っているが、事務処理の関係により年間を通してみると給付までに時間を要するケースがあるため、より迅速な対応に努めていく。

④ スクールバス・タクシー運行事業

* 事業概要

南部中学校において、富河・万沢・井出・十島地区の生徒を対象にスクールバスを運行する。小学校については、居住地が遠く離れている井出・十島・万沢地区の児童及び通学路（国道）が危険な楮根地区児童も、スクールバスで送迎している。陵草地区の児童については、タクシーで送迎をしている。

- ・ 総事業費 24,644,494円
(内 訳)
- ・ 運行委託料
 - スクールバス 17,296,400円 保有台数：6台
 - タクシー 1,783,400円
- ・ 修繕料 3,340,223円
- ・ 燃料費 2,224,471円

* 成果 [評価 4]

児童生徒の登下校、校外学習、部活動等が運行計画に則り事故なくスムーズに送迎ができ、学校の円滑な運営に資することができた。

教育委員会、学校、運行委託業者がスクールバスの運行に対して協議を行うスクールバス調整会議では、成果や課題等共有することで、安全に配慮したより良い運行につなげることができた。また、新入学の児童生徒に対して、スクールバス・町営バス・タクシーの乗降場所時刻、座席の位置や注意事項等の確認を行う乗車訓練を行い、新年度から児童生徒が安心して通学できる準備を整えた。その他、令和8年度の南部小学校開校に伴うスクールバスの運行計画について、合理的かつ円滑に策定することができた。

- 1) 南部中学校の生徒の輸送
 - ・ 富河地区 30名、万沢地区 12名、井出・十島地区 7名
- 2) 富沢小学校の児童の輸送
 - ・ 万沢地区 32名（内陵草地区3名）、楮根地区 6名
- 3) 栄小学校の児童の輸送
 - ・ 井出地区 4名、十島地区 1名

* 課 題

すべての児童生徒が安全かつスムーズに登下校できるよう運行時間、運行ルート、乗降場所等の調整を図る。また、令和8年度南部小学校開校に伴い、スクールバス運行が始まる。通学時間や通学状況に合わせて小学校のスクールバスの運行形態を改める必要がある。

⑤ 学校給食共同調理場運営事業

* 事業概要

平成25年4月に2つの調理場を統合し、南部町学校給食共同調理場をスタートさせ、調理の集中化による効率化を図るとともに衛生面の充実に努めている。

学校給食は、安心して安全な、そして、衛生面にも十分配慮した美味しい給食を提供することにより、子どもに望ましい食習慣を身につけさせることを目的にしている。

しかしながら、昨今の賄食材の相次ぐ値上げに対して、学校給食運営委員会において、給食費の値上げを検討し、令和5年度から一食当たりの賄食材単価を小学校317円、中学校370円と約10%引き上げることとした。しかし、米・牛乳・加工食材の度重なる値上げにより、令和8年度から、一食当たりの賄食材単価を小学校355円、中学校414円と約12%引き上げることとなった。

なお、令和2年度から児童生徒の学校給食費を無償化とし、保護者が負担する給食費を免除することにより、保護者の経済的負担の軽減を図り、町民の子育て支援につながっている。

また、令和7年度は、空調設備の改修、南部小学校用に配送用コンテナを4台更新した。

1) 学校給食の運営費

歳入決算額

4,500,570円（教職員・非常勤講師・調理員）

歳出決算額

70,590,697円（内、賄材料費27,734,054円）

2) 学校給食の提供

年間提供日数	小学校：196日	中学校：196日
1日当たり	小学校：257食	中学校：138食
年間食数	小学校：49,982食	中学校：25,868食
1食当たり食材単価	小学校：346円	中学校：404円

※給食食材1食当たりの基準単価は小学校317円、中学校370円で実施しているが、若干上回っている。原因として冬季の間、野菜の高騰や調味料・冷凍食品の値上げが影響したものと考えられる。代替食材で賄うなど努力してみたが、児童生徒の栄養面を考慮すると食材を減らすことは適切ではないと判断した結果である。

* 成 果 [評価 5]

令和2年度から児童生徒の学校給食費を無償化し、保護者の経済的負担の軽減を図り、引き続き町民の子育て支援を継続していくことに取り組んでいる。

異常気象による野菜の高騰・食品の値上げにおいては、給食の質や量の低下を生じさせないよう献立等を工夫し、食材費を極力抑えることができた。

食材については地産地消を意識し、峡南地域のJAや道の駅とみぎわの協力のもと季節感や風習に因んだ郷土料理や、たけのこ、大塚ニンジン、とうもろこし、あけぼの大

豆などの旬の野菜等を献立に加え、献立内容の充実を図っている。1月の学校給食週間では、「峡南地区の特産物を味わおう」と題して、峡南5町を代表する特産物を献立に取り入れた。

* 課 題

調理場では毎日約400食の調理業務を行うにあたり、午前8名・午後7名の人員を配置し、下処理、調理、洗浄に至るまでスムーズな作業ができるよう、効率的な体制づくりに努めている。しかし、常勤5名・パート7名で調理員の約6割を非常勤職員が担っている現状では、体調不良や家庭の事情により調理員が確保できずに人員不足になる日もあり、大変厳しい状況でもある。

安定的に学校給食を提供していくため、勤務時間の制限のない常勤調理員1名を増員する必要がある。毎日のシフトでは人員を配置できず、作業を兼務する日もある。そのような状況では、年次休暇の取得も難しいことから、調理場の業務環境の改善が求められる。

施設面では、建物自体の老朽化による給排水設備の劣化もあるが、最低限の修繕に留めている。厨房調理器機については、耐用年数を大幅に超えている冷蔵庫・消毒保管庫等の器機を計画的に更新する必要がある。

令和7年度の給食食材の調達では、見積もりからより安価な食材を選択していたが、野菜の高騰や米をはじめ食品全体の度重なる値上げもあり、1食当たりの基準単価を30円ほど上回ってしまった。代替食材で賄うなど努力してみたが、児童生徒の栄養面を考慮すると、食材を減らすことは適切ではないと判断した結果であり、補正予算で増額した。

令和8年度当初予算では、学校給食会の資料を参考にして給食基準単価を見直し小学校355円、中学校414円とそれぞれ約12%単価を引き上げた。

⑥ 要保護及び準要保護児童生徒への就学援助事業

* 事業概要

経済的理由等により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、学校で必要な費用(学用品費、修学旅行費等)を、認定基準額(所得の金額)に応じて認定審査を行った上、支給する。

区 分	受給者	援助額
睦合小(準要保護)	5人	119,260円
栄小(〃)	1人	8,330円
富沢小(〃)	11人	297,130円
南部中(〃)	9人	424,710円
計	26人	849,430円

◇準要保護者:児童扶養手当受給者
(17世帯26人)

◇要保護者:生活保護で対応
(0世帯0人)

* 成 果 [評価 5]

対象者に対しては、民生主任児童委員等と連携し申請漏れのないように手続きの勧奨を行っている。ひとり親家庭に対する経済的支援の効果は大きい。

* 課 題

前年比で受給世帯、受給者数ともに減少した。援助額は223,860円の減額となった。援助を必要とする児童生徒(母子、父子家庭)には漏れなく手続きの勧奨を図る。

⑦ 心の教室相談事業

* 事業概要

心の教室相談員を中学校に配置し、適切な教育相談や基本的な生活習慣等の指導を行い、生徒の悩みや不安、ストレスを解消する。

* 成果〔評価 4〕

より身近なところに相談できる場があり、生徒達の悩み、不安、ストレスが和らぎ、心にゆとりを持てるようになることは、生徒が充実した学校生活を送ることに繋がっている。また、相談員は学校や関係機関との連携役を担っている。

* 課題

相談員は、生徒が抱える諸問題について、担任、養護教諭、関係機関、教育委員会との連携が求められる。

⑧ 学校運営協議会事業

* 事業概要

平成28年度に南部中学校、令和2年度からは町内全ての小学校でも学校運営協議会をスタートさせた。学校運営協議会は、保護者及び地域住民の学校運営への参画や連携を図ることを目的とし、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。

* 成果〔評価 4〕

町内全ての学校で、学校運営協議会を設置し6年目となり協議会を通して、地域の声を教育活動に反映させることができた。学校と地域との相互理解を図る上で、協議会は効果的な機能を果たしている。あいさつビンゴや中学生の自主防災組織等の取組は地域の活性化や地域への貢献活動として、地域とともにある学校づくりをさらに発展させる取組となった。

例年、年度末に代表者等を集めた全体会議を開催していたが、令和7年度は町内2校の統廃合に伴い、日程調整等が困難であったため開催を見送った。なお、会議の内容については、学校だよりを通して地域の方に会議内容の一部を公開できている。

峡南管内の学校運営協議会の設置率が低いなか、管内他町の設置に向けた視察の受け入れを行い組織体制や取組の説明により、管内の導入促進を図ることができた。

* 課題

4校の学校運営協議会の代表者が集まって年1回全体会を開催しているが、令和7年度は開催を見送った。令和8年度は開催し、各運営協議会の運営方法や成果と課題等について情報交換を行い、より良い事業としたい。

⑨ 小学校適正配置事業

* 事業概要

教育委員会では、平成28年3月に「南部町立小学校適正配置に関する具申書」をまとめ、具申書の内容についての合意形成を図り、令和2年4月に富河小と万沢小を統合し、富沢小学校を開校した。開校後の令和3年6月に、富沢小学校の児童と保護者に実施したアンケート調査では概ね前向きな意見が得られ、7年目を迎えた同校では、今年度も一丸となって新しい文化と伝統づくりに取り組んでいる。

一方、睦合小学校と栄小学校の統合については、具体的方策を盛り込んだ「南部地

区小学校の適正配置に関する具体的方策案」を令和5年3月にまとめた。適正配置は、集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで思考力や表現力、判断力、問題解決能力を身に付け、さらに自ら課題を発見し主体的に学び合う協働的な学習が可能となるよう、より良い教育環境を整えるために実施するものである。そのため、児童や保護者、町民の理解を得て、計画どおり令和8年4月を目途に適正配置を行うとし、令和8年4月に新『南部小学校』が開校した。

* 成 果 [評価 5]

南部地区小学校の適正配置については、円滑な統合を進めるために南部地区新小学校統合準備委員会を2回開催し、校歌、校旗校章、通学支援、校舎改修、外構整備、閉校記念事業等について協議・提言が行われた。また、教職員で構成される教育課程等検討部会では、新小学校での教育課程、学校行事の擦り合わせ、PTAの再編、体育着のデザイン等についての協議が行われた。校舎改修については、2工区に分けて有人で行い、令和8年3月に工事が終了した。その際、備品の移動にボランティアを募り、都合3回（内初回は、2日間）ご協力をいただいた。

外構工事については、工区を2つに分け、先行して発注したスクールバスの乗降場所となるA工区は、令和8年3月に完成し、駐車スペースとなるB工区については、令和8年度に継続して実施する。

令和7年度の事業経過は次のとおりである。

○令和7年4月

- ・プール解体工事完了

○令和7年5月

- ・南部町議会第1回臨時会

睦合小学校(南部地区新小学校)校舎改修工事請負契約締結 議決

長田組土木株式会社 535,645 千円

- ・スクールバス物品購入契約締結 議決

株式会社ボディーショップ望月 19,793 千円

○令和7年6月

- ・南部町議会6月定例議会

学校適正配置事業費 99,639 千円

(内訳) 校歌作成事業 1,500 千円、外構改修工事 88,000 千円、閉校記念事業 10,139 千円

○令和7年6月

- ・第4回南部地区新小学校統合準備委員会

○令和7年7月

- ・校舎改修工事着工

- ・睦合小学校備品等引っ越し作業（2日実施） 延べ150人参加

○令和7年8月

- ・睦合小PTA役員支部長 通学支援説明会議

○令和7年8月

- ・栄小学校学校開放 約150人来校

○令和7年9月

- ・外構工事（A工区）着工

○令和7年11月

- ・校舎改修工事第1工区完成

- ・睦合小学校引っ越し作業 延べ 100 人参加
- 令和 7 年 1 2 月
 - ・第 5 回南部地区新小学校統合準備委員会
- 令和 8 年 1 月
 - ・校歌の作詞者及び作曲者と初回打合せ
 - ・睦合小学校・栄小学校 閉校式・閉校記念式典案内 発送
 - ・スクールバス 7 号車 納車
- 令和 8 年 3 月
 - ・校舎改修工事完成
 - ・睦合小学校 栄小学校 閉校式・閉校記念式典
 - ・外構工事 (A 工区)・歩廊建築工事完成
 - ・睦合小学校・栄小学校 卒業式
 - ・睦合小学校引越し作業(第 3 回)
 - ・スクールバス通学支援乗車訓練

* 課 題

令和 7 年度中に実施すべき事業は概ね完了した。継続して令和 8 年度に実施する事業として、外構工事 (B 工区) 及び校歌・校旗校章の作成がある。外構工事については、スクールバス乗降場所 (A 工区) で水はけが悪く、大雨時に出来た水溜りが暫く残っていた。(この箇所は 4 月に補修済み) B 工区では設計書の舗装路面勾配を確認して、雨水が捌けるように注意する。校歌・校旗校章については、作詞者、作曲者や学校および業者と連絡を密にとり、南部小学校にふさわしいものとなるように事業を進める。

⑩ GIGA スクール構想事業

* 事業概要

GIGA スクール構想とは、児童生徒向け 1 人 1 台端末と、高速大容量の情報通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させる計画。令和 2 年度に各学校内の情報通信ネットワーク整備、児童生徒 1 人 1 台端末の基盤整備を行った。令和 3 年度以降はユーザー管理システム、授業支援システム、ドリルソフトの導入や Wi-Fi 追加による通信環境の改善と教師用端末の購入等、ソフト面とハード面の整備を順次行っている。

GIGA スクール構想は第 2 期を迎え、1 人 1 台端末の更新が全国的に進められている。本町においても令和 7 年度に端末の更新を行い、令和 8 年度から新しい端末の使用を開始する。

* 成 果 [評価 4]

児童生徒の主体的な学びを支援するために、ドリルソフトを導入した。個に応じた出題で、一人ひとりのつまづきを解消し、自学自習を後押しし、学習習慣の定着や基礎学力向上につなげる。また、視覚的なコミュニケーションやポスターやプレゼン資料の作成を後押しするデザインツールソフト「Canva」を導入し、授業や児童・生徒会活動で利用が進んでいる。GIGA スクール構想を推進していく上でのハード・ソフト両面での環境は概ね整えることができた。

- ・小学 1、2 年生分 Chromebook リース 7 3 0, 4 4 0 円 (令和 7 年度支払い分)
(5 年リース合計金額: 4, 1 3 2, 2 0 0 円)
- ・児童生徒 1 人 1 台端末更新 1 3, 6 7 9, 8 2 0 円

・小学校ドリル学習ソフト使用料	402,600円
・中学校ドリル学習ソフト使用料	297,000円
・Windows11 アップグレード作業委託	599,500円

* 課 題

ICT を活用した授業支援としてデジタル教科書、ドリルソフト、MEXCBT、まなびポケット等様々なツールを導入している。学校、ICT 支援員、教育委員会間で情報共有しながら、「環境を整備し、使ってみる」段階から「効果的に活用する」フェーズに移行し、町全体でレベルアップを図る必要がある。

児童生徒の学年別操作習熟目標（タイピング速度、カメラ活用、インターネット検索等）を掲載した南部町版の情報リテラシー系統表を作成した。引き続き、各学年のレベルに応じた系統表になっているか検証し、児童生徒の情報リテラシーが適切にステップアップできる系統表にしていく。

⑪ 入学祝金

* 事業概要

小中学校1年生の保護者に対して、入学を祝福し、入学時における家庭の経済的負担の軽減を図り、児童生徒の健やかな成長を支援することを目的として入学祝金100,000円を支給している。

* 成 果 [評価 5]

令和4年度以前は、小学1年生の保護者に対し、20,000円を入学祝金として支給していた。令和5年度からは100,000円とし、対象者に中学1年生の保護者を加え、子育て世代へ更なる経済的な支援をすることができた。

【令和7年度入学祝金実績】

小学1年生・・・30名	3,000,000円
中学1年生・・・34名	3,400,000円
合計	64名 6,400,000円

* 課 題

支給対象者に漏れがないように関係課と連携を図る。転入出者や町外への進学等の様々な条件により判断しがたい場合には、要綱と内規により支給の可否を慎重に見極め、適切な事務手続きを行う。

⑫ 中学部活動の地域展開について

* 事業概要

令和4年12月に示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」では、学校運動部活動の地域展開は、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指すものとされている。まずは、休日における学校部活動の地域展開を進めるため、令和5年度から令和7年度までの3年間を、改革推進期間として、地域連携に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すこととされている。そのため、本町では、休日における学校部活動の地域展開を関係者と協議し推進した。

*** 成 果 [評価 3]**

休日における学校部活動の地域展開を念頭に、これまで、国・県又は他の自治体の状況を把握するため研修に参加するとともに、中学校と学校教育課、生涯学習課での協議を経て、令和7年10月に南部中学校部活動地域展開運営協議会を設置した。令和7年度中に2回協議会を開催し、部活動地域展開の現状と課題や基本方針を協議した。

*** 課 題**

課題として、地域展開への保護者の理解、指導者の人材確保や報酬のこと、教員の兼職兼業のこと、顧問と指導者間での指導方針の違いがある場合の対応、地域クラブの運営費や活動時間、参加者が加入する保険や活動時の責任の所在など多くの事項が課題としてあげられる。当初、コーディネーターの設置を検討していたが、協議会で地域クラブチーム（実施主体）を統括する運営団体を、生涯学習課職員が兼務（アルカディア）することに決定した。また、実施主体として、バレーボールのクラブチームを立ち上げて、地域展開を進めて行くこととした。

(2) 学校教育内容の充実

① 町費単独負担教員及び非常勤講師設置事業

*** 事業概要**

小規模小学校における教務主任の配置（学級担任外）並びに複式学級解消及び中学校におけるきめ細かな教育や教員の免許外教科の解消のため、町費単独負担教員及び非常勤講師を配置し適正な教育指導を行う。

*** 成 果 [評価 5]**

学級編制において県基準による教員配置数を町費単独負担教員で補い、適正な教育指導と円滑な学校運営を図ることができた。

町単教員数：小学校3名、中学校3名（25,504,008円）

非常勤講師：中学校4名（内県費併任3名）（1,289,460円）

事業費：26,793,468円

*** 課 題**

中学校は生徒数減少による県費教員の減少は大きく影響するとともに担当教科も関係するため、人材確保が課題となる。また、小学校においては、複式学級のデメリットを解消する学級運営を行う必要がある。

② 小中学校特別支援教育支援員配置事業

*** 事業概要**

小・中学校において特別支援学級入級相当ではないが、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、学校生活を送るために支援員（非常勤職員）を配置し、必要な支援を行う。

事業費：5,496,000円

*** 成 果 [評価 5]**

学級担任と支援員との連携により、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、状況に応じた適切な支援を行うことができた。また、特別支援学級に入級している児童生徒の交流学級でも同様のサポートをして、円滑な学級運営を図ることができた。

*** 課 題**

今年度は特別支援学級の新規入級者が2名あり、次年度以降も増加することが予想されるため、交流学級での配慮がさらに必要となる。

③ 小中学校外国語指導助手設置事業

*** 事業概要**

語学指導を行う外国語指導助手(A L T)として、中学校に1名、小学校に1名を配置する形で委託契約を結び、英語を指導している。また、県英語専科教員2名が町内各小学校を巡回指導している。

事業費：10,911,912円

*** 成 果 [評価 5]**

外国語授業では英語専科の教員とともにA L Tのネイティブな発音を実際に聞きながら覚えることで、英語学習への意欲・関心が向上し、英語を聞く・話すといった基礎的なコミュニケーション能力を高めることにつなげることができた。

令和7年度の小学校については、新任のA L Tが配置されたが、学校・英語専科教諭ともコミュニケーションがうまく図れ、授業への意欲も十分にあって、児童たちの外国語に対する向上心の促進につなげることができた。

*** 課 題**

委託業者が行う新任A L Tの研修内容等が学校で把握できず、A L Tと英語専科教諭の意思疎通が困難なケースがあるため、委託会社の指導員を含めた定期的な打合せを行う必要がある。

④ 山梨青森南部町児童交流会実施事業

*** 事業概要**

南部氏の縁に結ばれた、両県南部町児童が、互いの町の歴史や文化、身近な環境などふるさとの特色や学校等を紹介しあい、新しい時代の主役となる子どもたちの交流を深めるため毎年夏休み期間を活用し実施している。

事業費：1,550,000円

*** 成 果 [評価 5]**

7月に青森県で開催した。熱中症等の心配もあったが、青森県側の配慮で3日間大きく体調を崩す児童や事故等も無く実施することができた。

*** 課 題**

南部地区の睦合小学校と栄小学校の統合により、学校数が3校から2校に減少することにより、事務局校や引率教諭の負担が大きくなる。児童数の減少により、交流会定員30名を青森県側と協議をしていく必要がある。また、熱中症や長距離移動に伴う体調不良者への配慮十分に行う必要もある。

(3) 教育支援センター事業の実施

① 適応指導教室事業

* 事業概要

登校に不安を抱える児童生徒に対し、教員OB等のスタッフが学習の支援などを行い、自立に向けて活動する「チャレンジ教室」を南部町総合センター2階で開所している（平成26年度開設）。チャレンジ教室の開所時間は、基本的には月曜日から金曜日までの午前中である。

* 成果 [評価 4]

参加者は3名で、教室では数学、英語、国語、社会、理科を中心に取り組み、本人の意向に応じた学習支援を行った。また、保護者から不登校に関する教育相談業務を行い、家庭・学校と密接に連携支援する中で、自立に向けた支援を行った。

通室生徒	通室日数	通室期間
1年女子A	17日	令和7年10月～令和8年3月
2年女子B	28日	令和7年10月～令和8年3月
南部中卒業生男子C	95日	令和7年4月～令和8年3月

* 課題

不登校児童生徒の早期対応に努めるとともに、不登校の背景は集団への不適応、学力不振、友達や教師との人間関係等様々な原因によるものなので、学校、スクールソーシャルワーカー、家庭、教委等関係者が情報を共有し、個々の状況に合った最善の対応を検討する必要がある。また、チャレンジ教室から学校への復帰に努める。

② 教職員の指導力向上研修事業

* 事業概要

夏季休業期間中に町内小中学校の教職員を対象に授業力向上のための研修会を実施している。

* 成果 [評価 3]

令和7年度事業実績なし。

* 課題

ICTをテーマとした研修会が続いていたが、令和7年度は事業を実施していない。今後の事業について支援センターの職員と協議する。

③ 学力向上対策事業

* 事業概要

学習意欲の高揚と学力向上を図るため、小学4年生～中学3年生を対象に自学自習の場「なんぶ未来塾」を開所している。講師は教員OB等が務め、毎月2回、土曜日に開催している。

* 成果 [評価 4]

未来塾を開催することで、わからないところが理解できるようになり、学習機会の定着、集中力の向上、児童生徒の交流の場としての役割等の一定の成果をあげている。

リクエストプリントの配付や講師によるミニ講義等、工夫を凝らした運営を図ることができている。年度途中でお試し参加者を募り、継続的な参加へつなぐことができた。

小学生 9人 延べ118人 開校回数22回

中学生17人 延べ251人 開校回数22回

* 課 題

児童生徒の参加者が減少傾向にあるため、学校と連携し効果的な運営を模索し、多くの児童生徒が参加できるよう周知を図る。児童生徒へのアンケート結果や講師の意見を取り入れながら、未来塾をより良い学習の場にしていく。

無断欠席する児童・生徒が見受けられるため、開催日の前日よりFM告知放送での開催日時の再周知や保護者への事前通知等で呼びかけていく。

今後は小中学校の理解を深め、児童生徒に対して勧奨を行ってもらうことや、中学校は教科別講師の配置を検討していく必要がある。

④ 特色ある南部町教育事業

* 事業概要

特色ある南部町教育として、令和4年度から、1・2年生を対象にALTや英語専科の先生と一緒に楽しみながら英語に触れる時間を学期1回、放課後30分程度開催している。小学校全学年を通して英語活動を行うことは、明治時代のはじめ山梨県で最初に英語の授業が行われた南部町にふさわしい特色のある取組として推進している。

* 成 果 [評価 5]

英語をコミュニケーションのツールとして、歌やゲーム等で楽しみながら体験することで、意欲的に学習をすることができた。

* 課 題

英語に親しみが持つことができるよう小学校3・4年生の外国語活動、小学校5・6年生の外国語科につながるステップとして事業を継続していきたい。

⑤ N授業

* 事業概要

多くの児童がともに学習し、多様な考えに触れるなど学びを共有し、広める機会として3年生から5年生までを対象に年1回ずつN授業（町内小学校3校の合同授業）を実施している。

* 成 果 [評価 5]

3年生の道徳教育は統廃合事業のために実施を見送り、4年生は外国語教育として「フルーツパフェを作ろう(What do you want?)」を、5年生は南部町の歴史、自然、伝統等を題材としたふるさとカルタを使用した学習会及びカルタ大会を実施した。3校の児童が一つの授業に参加することで交流も深まり楽しみながら学ぶことができた。

また、N授業の様子が新聞やテレビで取り上げられ、町内外に南部町の特色のある取組をアピールすることができた。

* 課 題

教員からの意見や児童の感想を基に、今後もより良い授業となるよう継続していく。

⑥ ICT 教育支援事業

* 事業概要

平成29年7月にタブレットPCを小中学校に導入した。「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善をねらいとして、ICTを学習活動に利用するため、教育支援センターにICT支援員を配置した。GIGAスクール構想が始まり、4校を巡回して教員の操作技術補助、教材作成、授業支援、情報主任会議の企画・運営、アンケートの実施・分析等を積極的に行っている。

* 成果 [評価 4]

ICT機器を活用した授業の機器操作補助や、教職員へのPC操作指導などの支援を行い、従来の授業とICTとが融合した新しい授業スタイルが実践されている。また、各校巡回しての各種ソフトウェアの設定作業は、教員の負担軽減とスムーズな授業準備の一助となっている。

* 課題

GIGAスクール構想が始まり、令和2年度に1人1台の端末が整備され、ICTの本格的活用がますます推進されていく。活用が推進され、持ち帰り学習が増えるほどネットの特性や適切なコミュニケーション方法、情報のリスクなどを学ぶ「情報モラル教育」の充実が重要になっていく。ICT支援員、学校、教育委員会で活用の方策や課題を共有し、町全体でICT活用のレベルアップを図る。

⑦ 地域学校協働本部事業（学校支援ボランティア）

* 事業概要

地域住民が小中学校の教育活動に学校と一体となって関わることで、学校教育の充実を図るための事業として平成29年度から実施している。

南部町教育支援センター内に「地域学校協働本部」を置き、学校と地域をつなぐコーディネーターを1名兼務で配置している。コーディネーターは学校のニーズの把握、学校支援ボランティアの登録、学校の求めに応じた学校支援ボランティアの連絡調整と派遣の役割を担っている。

* 成果 [評価 4]

30人以上の地域住民が「学校支援ボランティア」とし、本の読み聞かせ、授業補助、草刈り、植木の剪定等の学校教育活動や環境整備の支援に携わっていただき、『地域とともにある学校』として学校教育の充実が図られ、教職員の負担軽減にもつながっている。

地域住民の参画は児童生徒とふれあい、学校の様子を知っていただく良い機会である。本の読み聞かせによる読書活動の推進、毛筆や陸上競技等の専門的な指導等学校支援ボランティアによる効果は大きい。 延べ参加人数：146人

* 課題

多くの方が学校支援ボランティアとして学校の教育活動に支援していただけるよう、広く周知活動を行い、人材確保に努める。

2. 生涯学習の充実（生涯学習課）

① 生涯学習の推進

* 事業概要

各種講座・教室・事業を通じて、町民が学習する機会を提供する。

* 成 果 [評価 4]

奥州南部藩視察研修、アルカディアフェスタ、はたちのつどいなど、地域の活性化や町民が学習することを目的とした年間予定事業を実施した。

【奥州南部藩視察研修】

令和7年8月3日（日）から5日（火）にかけて、「知る・わかる・残す・伝える 南部学」をテーマに、奥州南部藩視察研修を実施した。本研修は、南部氏の歴史的足跡をたどり、その文化や歴史について深い知識を得るとともに、これらを後世に伝えるための方法や手がかりを学ぶことを目的として行った。参加者は一般参加者26名、事務局2名、保健師1名を含む総勢29名で構成され、充実した内容の中で学びと交流の場を持つ研修となった。

【アルカディアフェスタ2025】

令和7年10月12日（日）にアルカディア南部総合公園多目的広場において、「きたえよう心と体 広げよう笑顔の輪」をスローガンに、あらゆるライフステージの町民が集い、生涯にわたる学習意欲の促進と、健康増進への関心を高める日として開催した。

生涯学習の推進として、大型かるた大会、家庭の日募集作品表彰を行った。

【はたちのつどい】

令和8年1月10日（土）に文化ホールにおいて、対象者63名（男性36名、女性27名）を祝福する式典を開催した。

対象者同士の再会の場になるとともに地域への愛着と20歳を迎えた者としての自覚を導く機会の提供がより一層できた。

* 課 題

各種講座・教室・事業は、幅広い年齢層の地域住民を対象に、文化・芸術・郷土愛を日常生活に根付かせることを目的とし、啓発活動を継続的に発信していくことが重要である。また、「はたちのつどい」は、一生に一度の晴れ舞台としての意義を重視し、限られたスタッフ体制や新生活様式の中で、より円滑な運営を目指して実施する。

② 青少年教育の推進

* 事業概要

青少年の人間形成においては、家庭の果たす役割が大きく、特に核家族化が進みつつある現在、個としての家庭ではその役割の発揮に限界がある。

町としても、少年期から青年期にかけて、社会参加活動への機会を提供するための青少年教育を推進する。

一方、一昔前と比べ、青少年を取り巻く環境も大きく変化し、依然青少年を巻き込んだ犯罪やインターネット・SNSを介した事件等は続出している。この背景には、コ

コロナ禍における休日などの過ごし方など環境の変化もあるが、地域における地縁的繋がり希薄化などによる地域の教育力の低下も考えられる。

このため、地域の皆で支えあって青少年の教育や社会問題の解決に取り組まなければならない。町はこれらの活動を支援し、また、相談指導体制の充実を図る。

*** 成 果 [評価 4]**

子どもクラブ連合育成会では、1月23日（金）から25日（日）の新春書道展では、279点の作品を展示し、206名の来場があった。

町民会議では、定期総会と夏季生活指導会議を開催し、冬季生活指導会議は書面開催とした。会議の中で青少年を支えあうことの必要性や、長期休暇期間において地域のあるべき姿について情報共有を行った。

夏季休暇の時期を利用した「家庭の日」作品募集事業は、予定どおりポスター・標語・作文それぞれのジャンルにおいて募集した。入賞作品27点については、アルカディアフェスタ2025において表彰し、文化祭で展示した。

*** 課 題**

青少年教育の推進における課題は、地域の教育力低下、ネット利用問題、社会参加活動の魅力向上、事業継続性の確保、相談指導体制の充実、そしてあいさつ運動の推進に集約される。家庭以外の支援が不足し、地域との連携が不可欠な状況にある中、地縁的繋がりを強化し地域教育力を向上させる取り組みが求められる。また、SNSやインターネット利用に伴う問題には、青少年のリテラシー向上と保護者への適切な指導が必要となる。

社会参加活動は一定の成果を上げているものの、幅広い層を巻き込むための活動内容の充実が重要である。事業の発展性を確保するため、デジタル技術を活用した発信や参加方法の工夫を進めるべきである。一方、相談指導体制についてはニーズを踏まえた具体的な改善とアクセス手段の強化が課題となっている。加えて、地域のイベントや公共施設などの日常空間において青少年と大人が自然に交流し、気軽に声を交わすことを促すあいさつ運動を強化し、地域全体で教育を支え合う仕組み構築が必要である。

③ 高齢者教育の推進

*** 事業概要**

高齢化社会においては、高齢者が経済社会の変化に対応していくために絶えず新たな知識や技術を習得する機会が必要とされる。また、学習を通じての豊かさや生きがいの充足が求められることから、積極的な社会参加を果たすことができるような学習と活動の機会を提供し、高齢者教育の振興を図る。

*** 成 果 [評価 4]**

学習機会提供の場として「なんぶいきいき大学」と称し、5月から2月まで年間6回、講義や歌など楽しく健康長寿の道を歩めるようなメニューを提供した。

高齢者教室「なんぶいきいき大学」

＊高齢者を対象に、年間６回（５月～２月）の学習会を実施。

開催曜日は木曜日

第１回 開講式と町長講話

講師…南部町長 佐野和広 開催日時…５月２９日

開催場所…活性化センター 参加人数…６３人

第２回 自分の人生は自分で選ぶ！創る！～フレイル予防編～

講師…明治安田生命 開催日時…６月２６日

開催場所…活性化センター 参加人数…４９人

第３回 健康長寿の秘訣～ながーく元気であるために～

講師…明治安田生命 開催日時…７月２４日

開催場所…活性化センター 参加人数…３４人

第４回 町外研修

開催日時…１０月１３日(日)

開催場所…牧之原市博物館、浜岡原子力館 参加人数…４０人

臨時回 絵画でその地を愛でる事

講師…日本画家 棚町宜弘 開催日時…１１月１４日

開催場所…アルカディア文化館 ２階美術館 参加人数…３６人

第５回 スマホをもっと活用しよう！

講師…一般社団法人万沢集学校 開催日時…１２月１８日

開催場所…万沢集学校（旧万沢小学校） 参加人数…３８人

第６回 開講式と春待ちコンサート

講師…リードアンサンブル ミュール 開催日時…２月１９日

開催場所…南部町文化ホール 参加人数…４５人

＊講話や音楽会などを行い、幅広いテーマで学習した。町外研修では牧之原市博物館、浜岡原子力館の見学を行った。皆勤賞（臨時回除く）は１８人だった。

＊ 課 題

高齢者の社会参加が少なくなってきた今日では、高齢者世代の趣味も日々変わってきている。そのため、ニーズの多様化など、多くの参加者に興味を持ってもらえるテーマ設定や足を運んでもらうための工夫を行い、新規参加者の増加を目標にしていかなければならない。また、実施にあたっては、高齢者の学習機会が競合しないよう他団体と調整し、場合によっては共催も考慮する必要がある。

3. 文化の振興（生涯学習課）

① 文化財保護事業

* 事業概要

文化財は、地域の歴史や文化の成り立ちを理解するうえで、欠くことのできない資産である。現在、国指定1件、県指定18件と町で47件を指定しており、文化財審議会委員を中心に史跡や天然記念物の保護、無形文化財の継承に努めている。

また、これら文化財について、情報発信や学習機会の提供と、それらを活用することによって郷土の良さの再発見を促す。

* 成果 [評価 4]

県・町の補助を活用し、国指定文化財1件の火災予防と県指定天然記念物1件の樹勢回復事業を行い、適切な保存に努めた。埋蔵文化財に関しては、受理2件と進達2件、合計4件の処理を行い、2件の立会い試掘調査を行った。これらの取り組みにより、各種文化財の保存・継承に努めることができた。

また、歴史資料室において、「御用日記七」を読み下し、製本化を行った。新たに南部町偉人漫画「近藤喜則」作成に向け構成等に取り組んでいる。

* 課題

町には文化財専門の知識を有する職員がいないため、県の専門機関や文化財保護審議会委員及び所有者等との協力体制を強化し、文化財の保護に努める必要がある。

文化財の活用という点に関しては、南部氏・近藤喜則の両史料館等を手始めに情報発信しながら、生涯学習の場での活用を探求していく。あわせて、案内看板作成やマップの更新及びデジタル化などは、予算化を検討していく必要がある。

生涯学習の分野におけるふるさと教育推進にあたっては、町の文化財の保存・活用と密接な関係があるため、引き続き「ふるさとカルタ」を活用した事業を研究し、併せて「南部学」などに関連付けた事業展開を検討していきたい。

② 文化協会等育成事業

* 事業概要

平成30年度から、新南部町文化協会として活動を開始している。“創りだそう　くらしの中に　輝きを”をキャッチフレーズに、町民の文化活動への支援や芸術文化へ触れる機会の提供及び文化祭の開催を通して、文化振興へ貢献していく。

* 成果 [評価 5]

文化祭芸能発表部門は、文化ホールで開催し、18の個人や団体による舞踊やコーラス等が発表された。

また、展示発表会は活性化センターで開催し、子どもからお年寄りまで数多くの作品が展示され、来場者の目を楽しませることができた。

芸術文化へ触れる機会の提供では、8月に東京宝塚劇場において花組公演の鑑賞会と10月の東京方面への県外研修を実施した。

* 課題

現在の事業展開は、南部町文化協会を中心とした町民の自主的な文化活動が浸透しているが、所属員の高齢化が深刻な問題である。また、各個人がより豊かな人生を送るために、様々な文化芸術や交流活動を推進していく必要がある。

今後は、関係者との情報共有や連携を図り、町民の文化芸術活動が衰退しないよう工夫を重ねていく。また、本町の自然や人情に惹かれて都会から移住した芸術家との交流を深め、新たな文化の創造の可能性を追求していく。

4.公民館・文化ホール事業（生涯学習課）

① 各種教室、講座等の主催事業

* 事業概要

中央公民館では、身近で多様な学習機会の提供を目的に、町民を対象とした公民館講座や各種教室を開催している。

【連続講座】

教 室 名	時期・実施回数	募集定員	受講者数
羊毛フェルト教室	月 2 回 (6 回)	6 人	5 人
流木アート教室	月 1 回 (2 回)	5 人	3 人
雑貨教室	月 1 回 (3 回)	7 人	2 人
陶芸教室	月 1 回 (3 回)	10 人	5 人
パン作り教室	月 4 回 (8 回)	30 人	28 人

【単発講座】

教 室 名	実施日	募集定員	受講者数
こども科学教室	12 月 14 日 (日)	20 人	28 人
おやこ料理教室①	7 月 5 日 (土)	24 人	28 人
おやこ料理教室②	2 月 7 日 (土)	24 人	22 人

* 成 果 [評価 3]

公民館講座は、「地域住民の生きがいがづくりの入口」という生涯学習の一つの役割を確立する過程にある。一部の受講者は、講座をきっかけにサークルに参加するなど、趣味として継続する動きが見られる。

本年度は、感染対策を緩和しつつ受講者の自主性に委ねて開催したが、最後まで受講生の中から体調不良者は出なかった。

全ての事業で、前年度と比較して学習できる機会を増やすことができた。

* 課 題

受講者は、リピーターが多く、新規受講者の開拓が課題である。

また、公民館本来の役割である「学びを通じた仲間との交流」や「地域に内在する課題への気づき」に繋がれているとは言えず、目的を果たすまでの道のりは遠い。

このため、講座という「学びの場」の提供に加えて、講座で学んだことを活かす具体的なビジョンを提示することで、「地域住民の交流」「地域リーダーの育成」に繋がるような、主体的な学習活動を支援していく必要がある。

② 南部町文化ホール事業

* 事業概要

本事業は、芸術文化に関する住民の意識の啓発、教養の向上を目的とし、映画会、寄席などの自主事業を実施する。実施にあたっては、文化ホール運営委員会を開催する。

また、地域社会の振興に寄与するため、南部町民文化祭芸能発表会や内船歌舞伎の定期公演等へ協力した。その他、ホールの貸館等を行った。

【自主事業】

事業名	開催日	入場数	販売収入額
なんぶシネマ	8月30日（土）	189人	61,500円
宝くじ歌園迎賓館	9月15日（月）	348人	386,510円
宮西達也のナンダァーランドステージ2	12月21日（土）	362人	211,000円
なんぶ演芸	3月28日（日）	335人	613,500円
計	—	1,234人	1,272,510円

【有料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
富士川林業振興会総会	7月30日（金）	100人	8,375円
南部町森林組合総会	2月22日（木）	150人	8,375円
TAKAKO 音楽教室	3月30日（土）	100人	23,010円
計		350人	39,760円

【無料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
文化協会各部発表会・練習等	4月4日（金）他	579人	無料
小学校芸術鑑賞会	5月2日（金）	240人	無料
防災講演会	6月29日（日）	200人	無料
文化協会総会他（会議）	6月5日（金）他	280人	無料
文化祭	11月2日（日）	264人	無料
内船歌舞伎	12月7日（日）	360人	無料
はたちのつどい	1月10日（土）	144人	無料
南部町消防団出初式	1月11日（日）	100人	無料
いきいき大学	2月19日（木）	45人	無料
計		2,212人	

* 成果 [評価 4]

自主事業としては、「なんぶシネマ」「宝くじ歌園迎賓館」「宮西達也ナンダァーランドステージ2」「なんぶ演芸」を開催することができた。今後も文化ホールを拠点に、文化芸術の素晴らしさを町民に伝える機会を提供していくことが求められる。また、文化ホール運営委員会を開催し、委員同士での情報共有や今後のあり方について活発な議論を行うことができた。さらに、貸館事業については、通常通り運営している。

* 課題

自主事業については、できるだけ集客の見込めるコンテンツの提供が求められるため、演目や日程について文化ホール運営委員の意見を取り入れながら企画・立案していくことが重要である。貸館については、経年による施設の更新も課題となっている。稼働率と管理のバランスを取りながら、より良い利用形態を模索し、地域の文化振興に貢献していきたい。

5. アルカディア文化館（生涯学習課）

(1) 南部図書館・富沢図書館

* 事業概要

地域の情報拠点や学習の拠点となる図書館は、町民の学習要求の多様化、高度化に伴い、一般書はもとより専門書、学術書、地域資料、さらには公共図書館と学校図書館を結ぶネットワークの活用を図ることで、学習にあった多種多様な資料の収集及び提供を行うことを目的とする。

【南部図書館】

- 開館日数： 274日
- 来館者数： 10,970人（40.04人／日）
- 貸し出し冊数： 32,525冊（118.7冊／日）
- 主催教室事業

事業名	開催数	参加者数
乳幼児お話し会・リトミック教室	35回	325人
図書館お話し会	5回	117人
小学6年生対象出張お話し会（宮西達也先生）	3回	40人

【富沢図書館】

- 開館日数： 284日
- 来館者数： 4,548人（16.01人／日）
- 貸し出し冊数： 8,025冊（28.26冊／日）

* 成果 [評価 4]

本年度は町民の継続した読書活動を推進するため、感染症対策を適切に緩和し、安心して図書館を利用できる環境づくりに努めた。教室イベント等においても、感染症対策を見直しつつ開催を継続し、多くの方に参加していただける機会を提供することができた。

* 課題

利用者のニーズにあった図書を提供するため、リクエスト等の情報の収集に努めるとともに、住民の読書支持率向上のための方策を検討していく。また、蔵書情報のWEB公開やオンラインによる予約システム等の新しい生活様式に則した図書館機能を検討し、住民にとってより利用しやすい図書館運営に努める。

(2) 町立美術館

* 事業概要

町民が歴史と文化に興味を持ち、芸術向上の場として親しみやすい美術館運営を考慮し、郷土が誇る芸術家「近藤浩一路」の功績を称え、その作品を美術館に展示する。

水墨画美術館として幅広く認知され、町内芸術家の情報発信、交流の場となるような事業を展開する。

○開館日数：274日

○企画展

・早蕨作品展	3月30日(日)～	4月20日(日)	341人
・南部町在住10人の表現者展	6月15日(日)～	7月21日(月)	866人
・渡辺英基写真展 うつろいⅢ	8月 3日(日)～	10月4日(土)	644人
・棚町宜弘日本画展	10月11日(土)～	11月19日(水)	326人
・宮西達也ナンダァーランド展	12月 6日(土)～	1月25日(日)	797人
・早蕨作品展	3月 8日(日)～	3月29日(日)	345人

○常設展

・近藤浩一路作品 (通年開催、年4回展示替え)	460人
-------------------------	------

*** 成 果 [評価 4]**

本年度は、新たな取組として「南部町在住10人の表現者展」を実施し、町内で活動する芸術家の作品発表の場を提供することができた。この企画展は、地元の芸術文化の魅力を広く発信するとともに、表現者同士や来場者との交流を促進する場ともなり、地域の文化振興に寄与する貴重な機会となった。また、例年通り実施している企画展についても、工夫を凝らしながら進めた結果、多くの方に足を運んでいただくことができた。

*** 課 題**

現状では、有名な作家ほど町外者が多く来館する傾向がある。そのためより多くの町民が芸術に対する興味や関心を高められる企画を増やす必要がある。

また、町外者に対しては、WEBやSNSの活用による情報発信を強化し、さらなる来場者数の増加を図る。

6. 生涯スポーツの充実（生涯学習課）

(1) 施設の充実と効果的な活用

【アルカディアスポーツセンター】

* 事業概要

町民の健康増進、余暇の充実をはかるため温水プール、トレーニング室等を擁する複合施設として、年間を通じて管理運営を行っている。特に小学生水泳教室や子供体操教室、一般成人を対象とした教室事業を週20教室以上実施し、子供から大人まで老若男女を問わず利用していただいている。町が掲げる「健康長寿日本一」の目標を実現するために、町民の皆さまが自発的に活動、取り組みが出来る拠点施設として重要な役割を果たしている。

○営業日数：305日

○入館者数：32,549人（106.72/日）

	利用者数	収入金額
内訳 プール・ジム	17,174人	(4,258,970円)
レッスン	11,567人	(7,158,500円)
体育館	3,808人	(671,750円)
		<u>12,089,220円</u>

興行販売（キッチンカー）59件 59,000円
12,148,220円

○その他の施設：32,231人（105.68/日）

	利用者数	収入金額
内訳 テニスコート	1,563人	(498,340円)
野球場	5,784人	(578,960円)
運動場	2,336人	(57,230円)
富沢野球場	2,527人	(211,680円)
小中学校施設	18,834人	(662,880円)
柔剣道場	1,187人	(54,900円)
		<u>2,063,990円</u>

○主要教室事業	申込者数	事業収入
☆親子体操教室	18人	72,000円
☆シニアトレーニング(初級)	18人	72,000円
☆シニアトレーニング(中級)	11人	44,000円
☆シニアトレーニング(脂肪燃焼)	10人	50,000円
☆ちえあーエクササイズ	7人	28,000円
☆ステップ30	6人	24,000円
☆ステップ45	19人	95,000円
☆関節ケア&リラクゼーション	32人	128,000円
☆カラダすっきり水中エクササイズ	46人	184,000円
☆子供体操教室（年少・年中・年長・小1）	101人	404,000円
☆大人初級・上級水泳教室	38人	133,000円
☆ズンバ	73人	365,000円

☆アクアズンバ	8人	40,000円
☆全身シェイプ&体幹強化	18人	99,000円
☆美筋トレーニング	30人	165,000円
☆Let's Jump	30人	165,000円
☆シェイプアップトレーニング	5人	27,500円
☆エアロサーキット(火曜日)	30人	150,000円
☆エアロサーキット(木曜日)	21人	105,000円
☆アライメントフロー	30人	165,000円
☆ウォーキングエクササイズ	29人	116,000円
☆ピラティス	11人	55,000円
☆エアロコンディショニング	29人	145,000円
☆やさしいエアロ(ベーシックエアロ)	70人	350,000円
☆マットサイエンス	58人	290,000円
☆カラダ整えエクササイズ	39人	156,000円
☆60分満足体操(水曜日)	16人	80,000円
☆60分満足体操(木曜日)	49人	245,000円
☆朝ヨガ	39人	214,500円
☆アクティブ&リラックスヨガ	43人	236,500円
☆リラックスヨガ	58人	319,000円
☆パワーヨガ	38人	209,000円
☆シェイプ&体幹トレーニング	30人	165,000円
☆小学生水泳教室	166人	1,660,000円
☆年中・年長水泳教室	19人	190,000円
☆体操教室(生涯スポーツ係)	24人	96,000円
☆トランポリン教室(生涯スポーツ係)	29人	116,000円

合計 1,298人 7,158,500円

* 成果 [評価 4]

教室事業については、3ヶ月ごとに教室の見直しを行っており、常に利用者ファースト、町民福祉の充実といった観点からも年間を通じて教室事業を実施した。

* 課題

人口減少などの観点からみても、これまで以上に創意工夫し、常に利用者目線で、ニーズにあった教室事業を実施する必要がある。

【その他社会体育施設】

* 事業概要

社会体育施設・学校体育施設の開放は、各支部スポーツ協会やスポーツ協会専門部及び多数のクラブチームが利用している。各施設の開放は、町民並びに各団体の競技力向上と生涯スポーツの継続を果たす役割を持っている。

* 成果 [評価 4]

多目的広場については、特に土曜、日曜を中心に利用者が多く、特に町外者の利用が非常に多く見受けられ、賑わっている。また、早朝からウォーキングを楽しむ町民の方々も多い。さらに、マルシェなどの民間イベントを積極的に受け入れており、興行販売件

数については、令和7年度59件と前年を大きく上回った。他の施設についても、中部横断自動車道の開通により町内外からの利用者が年々増えている状況にある。

* 課 題

アルカディア南部総合公園（スポーツセンター、テニスコート、野球場、運動場、多目的広場）及び社会体育施設は、管理する施設数が増えている。一方で、職員数は減少していることを踏まえて、除草作業などは専門業者へ委託し、町民が安心安全に利用できるような質の高い施設運営を目指さなければならない。さらに、町全体の類似施設等の集約化を検討し、スリム化を図っていく中で、継続的な施設管理を実施していかなければならない。

(2) スポーツグループの育成とスポーツの活性化

① スポーツ推進委員事業

* 事業概要

目 的：町民にスポーツの楽しさ、すばらしさを伝えるとともに、スポーツやレクリエーションの普及振興を図るための指導・助言を行う。

事業費：400,000円（スポーツ推進委員会補助金）

事 業：1) 軽スポーツ普及事業

トランポリン教室（11回）、体操教室（11回）

2) 各種スポーツ大会等への協力

アルカディアフェスタ2025、第23回駅伝・マラソン大会
チャレンジデー2025

3) 各種研修

定例会（3回）、峡南研修（2回）、県研修（2回）

* 成 果 [評価 5]

スポーツ推進委員21名は、スポーツの普及振興に努めている。中でもトランポリン・体操教室については、毎月一回のペースで指導有資格者を中心に指導ができ、参加者から好評を得た。

町内のイベント等については、アルカディアフェスタ2025をはじめ、駅伝・マラソン大会を開催し多くのチーム・参加者のエントリーがあった。

県のスポーツ大会、研究大会には町スポーツ推進委員が積極的に参加した。

* 課 題

スポーツ推進委員は、町のイベントへの協力をはじめ、積極的にスポーツ活動の推進に取り組んでいる。一方で、研修等を通じて習得した知識を地域に普及させ、地域全体のスポーツ意識を高めることが現在の重要な課題となっている。

② スポーツグループ育成事業

* 事業概要

目 的：町民のスポーツ実施率の向上とスポーツの日常化を目指し、軽スポーツグループの育成を図る。

事 業：「南部リズム会」は平成18年度から自主団体として活動し、毎月1回リズム体操教室を開催している。会員は年度末現在46名。

*** 成 果 [評 価 5]**

南部リズム会は設立から19年が経過し、町民の中に定着している。50代から80代までの女性層が中心で生活習慣病予防、体力づくりのほか会員の憩いの場としての役割を果たしている。

*** 課 題**

リズム体操をするだけでなく、南部警察署と協力しての交通安全・防犯活動等の多種多様な活動も活発となっている。今後も、なお一層の啓発や事業の推進を図り、スポーツを積極的にしない町民の取り込みを図る。また、会員自身がさらに主体的に活動し、運営していく体制を整えていく。

③ スポーツ教室・イベントの開催

*** 事業概要**

目 的：スポーツを振興し、町民の体力増進・健康を保持するとともに、人と人とのふれあいを育むコミュニティの場として、誰でも楽しめる軽スポーツを中心に教室を開催する。

事業費：教室謝金630,000円、サンクスデー41,000円

事 業

1) 各種教室の開催

教 室 名	開催日	開催回数	参加者数
ウォーキング教室	11月26日(水)	1回	69人
トランポリン・体操教室	4月～2月	11回・11回	延べ583人
スキー教室 しらかば2 in 1	2月15日(日)	1回	46人
リズム会	4月～3月	12回	延べ328人
ノルディックウォーキング教室	4月～3月(6・8月なし)	10回	延べ183人

2) スポーツイベント

イ ベ ン ト 名	開催日	参加人数
チャレンジデー 2025	5月28日(水)	2,785人
アルカディアフェスタ 2025	10月12日(日)	1,900人
ヴァンフォーレ甲府 サンクスデー	6月28日(土)	22人

*** 成 果 [評 価 4]**

日頃からスポーツの体験ができない方に対して、きっかけづくりとしての大きな効果があり、各教室とも多くの初心者参加があった。イベント関係は、予定した全ての事業を開催した。

* 課 題

アルカディアフェスタは、前年度に比べ予算を抑えて実施した。職員がアイデアを持ち寄ることで多目的広場を有効活用することができたが、秋の行楽また地域のお祭りシーズンと重なることで集客面では伸び悩みがみられる。次年度に向けては、さらなる創意工夫により、町民にとって運動に触れながら心身ともにリフレッシュできる事業とし、少しでも運動の健康への影響について興味や関心を持ってもらうことが重要である。

(3) 組織の充実と連携

①スポーツ協会

* 事業概要

目 的：生涯スポーツを推進するには、スポーツ協会と町行政とが緊密な連携を図る必要がある。また、スポーツ少年団から各競技団体までの競技力向上と生涯を通じてスポーツに親しめる環境と仕組みを構築している。

事 業：スポーツ協会は25支部、14専門部、6スポーツ少年団から組織され、教育委員会生涯学習課生涯スポーツ係が、庶務会計を担当しスポーツ振興を図っている。競技スポーツとしての一面と生涯スポーツの一面を有し、県体育祭への出場、駅伝・マラソン大会の開催、各種スポーツ教室の開催を年間事業としている。特に初心者を対象にしたスポーツ教室では各種目の普及を目指している。さらに、行政とも緊密な連携と協力体制が図られている。

事業費： 4,100,000円 (スポーツ協会補助金)

事 業 名	開催日	参加人数
体育功労者・特別表彰式	10月12日(日)	118人
第23回南部町駅伝マラソン大会	1月25日(日)	273人

* 成 果 [評価 3]

町とスポーツ協会の連携が図られ、スポーツ事業が実施されている。令和元年度から町民体育祭の開催は見送られ、駅伝・マラソン大会が町の一大行事として位置づけられる。令和7年度も町内外から多くの選手が参加し、盛況な大会となった。

* 課 題

活動人口の減少に伴い、活動組織におけるスポーツ活動の低下やスポーツに関する機会や環境が減少していることで、住民がスポーツに携わる機会も減少している点が、深刻な問題となっている。また、スポーツ活動の減少により地域住民の健康維持や体力づくりの推進も重要な課題となっている。